

＜宮城野区中央市民センター＞の取組み [目標3-②]

宮城野区中央市民センターが平成24年度から複数年かけて取り組んできた事業「宮城野原案内人養成講座」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

魅力ある宮城野原を多くの人に伝える為、継続的にボランティアを養成するのが「宮城野原案内人養成講座」です。4年目のテーマは「宮城野の生活と文化」です。現在と過去を比較ながら、過去から伝えられた文化や先人の知恵・工夫を学びました。

また、ガイドボランティアとして必要な「話し方」については、「宮城野原案内人の会」のメンバーから、「個性的で味のある話し方」を、講師を招いた講義では「人にきちんと伝わる話し方のポイント」や「面白く人を惹き付ける話し方」をご指導していただきました。

その他、館外学習としては、建物から宮城野の暮らしを見て学ぶ現地での見聞学習を実施。全6回の「宮城野原案内人養成講座」は9月～12月の期間で開催され、終了後は「宮城野原案内人の会」に4名の登録がありました。今後は「宮城野原案内人の会」を通して、市民センター主催事業の講師や、市民センターまつりへの参加・ミニガイドなど、引き続き地域のガイドボランティアとして多くの方々に宮城野の魅力を伝える取組みを続けて参ります。



江戸末期から200年続く原町本通り庄司家を見学。



講師：ドリームフィールド 研修会社



「宮城野原案内人の会」の2人には、失敗談を含めてモデルガイドをしていただきました。



＜高砂市民センター＞の取組み〔目標3-②〕

高砂市民センターが平成24年度から複数年かけて取り組んできた事業「震災復興地元学」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

東日本大震災での津波被害によって大きく変化、喪失した中野・岡田地区における震災前から復興にいたる地域の人々の記憶と生活の動きを記録するため、「未来に伝えたい中野・岡田の会」が結成されました。地域の編集委員も加わり、平成25・26年度に震災復興地元学誌「未来に伝えたいふるさと」「蒲生」「岡田」「港」を発売し、本年度の「西原」「和田」「町蒲生」で完結しました。これは地域の人々がこの地で生きた証しであり、未来に語り伝えたい「心のふるさと」として活かされていくことを目指しています。

未来に伝えたい中野・岡田の会のメンバーと編集に携わった地域の人たちと共に冊子を通して培った絆で、宮城野区文化センター、荒井駅の「せんだい3・11メモリアル交流館」で冊子作りに対する思いやふるさと中野・岡田に対する思いを伝えています。



12月6日地下鉄東西線荒井駅にできた「せんだい3・11メモリアル交流館 キックオフミーティング」でふるさと港の思いや編集に携わった思いを市民に伝えた。



3月5日（土）宮城野区文化センター震災復興事業 震災復興地元学～中野・岡田のキオクとキロク トークイベント
現役中学生と卒業生が、ふるさとを熱く語りました。



＜岩切市民センター＞の取組み〔目標3-②〕

岩切市民センターが平成25年度から複数年かけて取り組んできた事業「岩切スポーツ」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

震災後の癒しと健康管理の視点からアンケートで希望を募りニュースポーツ講座を取り上げました。高齢者から小学生まで先入観なく気軽に取り組めるニュースポーツを経験し、先進的に習熟することで地域の一体感を醸成することを目的としました。

- 平成25年【ニュースポーツにチャレンジ】

11種類のスポーツを体験し参加者よりとても楽しいと好評でした。

- 平成26年【みんなのニュースポーツ】

ゲッターナイン・グランドゴルフ実施、さらに他種目の希望もありました。

- 平成27年【楽しいニュースポーツ】

2年間で体験した各種のニュースポーツの中から、主たる種目を年齢にかかわらずにできる「スポーツ吹き矢」と「ペタンク」として実施しました。各種目ともとても好評で、終了後にサークルの立ち上げ希望があり、さらに地域の各種団体のイベント等へ参加することにより普及を進めています。

①吹き矢



②ペタンク



＜鶴ヶ谷市民センター＞の取組み〔目標3-②〕

鶴ヶ谷市民センターが平成25年度から複数年かけて取り組んできた事業「私たちの鶴ヶ谷～これまでを学びこれからを考えよう」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

鶴ヶ谷地域は団地造成から四十数年が経ち、町並みの変化と高齢化が進むなか、5年前の大震災により公共施設や住宅などが大きな被害を受けました。復興途上にある鶴ヶ谷において、平成25年度及び平成26年度は団地造成当時から震災後までの鶴ヶ谷の町並みや暮らしぶりを振り返り、年表やDVDによる記録を作成しました。

平成27年度は受講生が中心となり、地域の行事や市民センターの主催講座で講師を務めるなど、それらの記録を広く地域へ公開するための活動を精力的に行いました。

更には地域の運動サークルや団体の活動を情報発信するための場を設けるとともに、交流を図るための公開講座も開催しました。受講生が中心となり、各種団体やサークルに加え、町内会役員、多くの地域住民が一同に集い、地域住民の交流が図られました。

今後は講座に止まらず自主サークルとして、鶴ヶ谷地域のまちづくりのための活動を広げていく予定です。

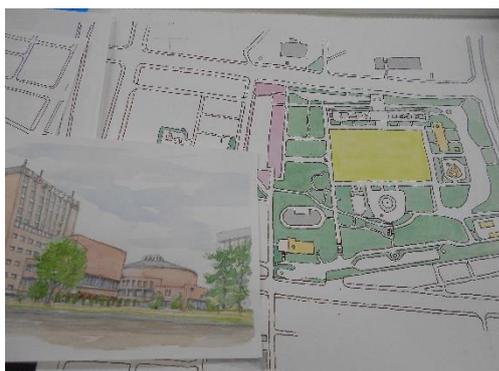


＜榴ヶ岡市民センター＞の取組み〔目標3-②〕

榴ヶ岡市民センターが平成25年度から複数年かけて取り組んできた事業「榴岡地域案内人養成講座」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

平成25年度から始まった『榴岡地域案内人養成講座』では、案内人による企画講座と水彩画サークルによる案内資料の作成を続けてきました。平成27年度は案内資料のための作品の一部が完成してきました。また、案内人による企画講座としては、榴岡界隈のガイドツアーを開催しました。榴岡公園にちなんだ「桜」や、今はなき「仙石線の踏切」をテーマにしたガイドツアーは毎回、好評です。



水彩画サークルが作成中の案内資料



案内人による企画ツアー

＜東部市民センター＞の取組み [目標3-②]

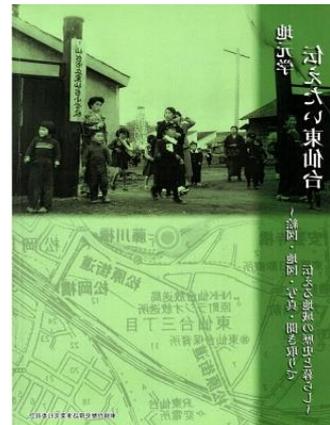
東部市民センターが平成24年度から複数年かけて取り組んできた事業「地域プロデュース『東仙台耀きクラブ』」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

「東仙台耀きクラブ」は、宮城野区中央市民センターと共催して、住民参画・問題解決型学習推進事業として行われています。地域の特性や、景観等の地域資源を学び再考し、様々な立場の受講生が、新たな地域の可能性を考える場を共有し、地域の核となるイベントや、行事を地域住民自ら企画し実行することで、協働して地域活動を行う人材を育成することを目的とします。

平成27年度の取組みとして

地域の歴史を“地形”“治政”“地名”から学び、平成26年に東仙台歴史探訪の会にて発行した地元学冊子を基に、地域の内外の方々と共に語り伝えるべき事象や地点を探りました。実際に仮の行程Aコース、Bコースに分かれて地域を歩きながら、地域の人に知って欲しいことを、実際に見て触れることで受講生たちの地元学への意欲の向上と、地域の歴史を伝える活動をする人材育成にもつながりました。



〈幸町市民センター〉の取組み〔目標3-②〕

幸町市民センターが平成24年度から複数年かけて取り組んできた事業「一人ひとりにやさしい防災の輪」—防災でつながる人と人—では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

平成24年度市民企画講座「3.11から学ぶこと」から立ち上がった5人のメンバーに1人加わって、平成27年度は6人でスタートしました。地域で活動している消防団員、婦人消防クラブ員、防災リーダー（2人）、震災を語り継ぐフェイスブックを書いている方、料理が得意な主婦。男性1人、女性5人です。主な活動は次の2つです。

① 栢江学区地域合同防災訓練

事前の打合わせに参加し、今回は栢江学区地域合同防災訓練のひとつとして「幸町市民センター補助避難所開設」を想定した訓練内容を検討しました。訓練当日9/12（土）は、近隣の4町内会の住民をはじめ52人が参加し、仙台市指定動員・鶴ヶ谷消防署員・消防団員・水道局職員の指導のもと、点呼・避難者名簿作成・給水訓練・防災資機材倉庫の物資の見学・発電機の実働訓練・AED訓練等を行いました。避難所の運営は、地域の方々を中心にやって行うこととなります。メンバーがリードし、地域住民を巻き込んだ訓練ができました。

② 栢江小学校6年生「大型防災すごろくゲーム」

防災教育の一環として、2/10（水）同校体育館においてに児童40名を対象に仙台ひと・まち交流財団のオリジナルゲームを実施しました。楽しみながら防災知識を身につけることを目的に防災クイズやバケツリレー（空き缶運び）ゲームを行いました。メンバーは、若林区中央市民センターで開催した遠見塚小学校での同ゲームを事前に見学して内容を検討し、役割分担を決めて当日を迎えました。参加した5人のスタッフの活躍により、子どもたちの防災意識の向上につながってくれることでしょう。

主催事業「一人ひとりにやさしい防災の輪」は、2/26（金）に平成27年度の活動を振り返り、次年度に向けて話し合い、新たな取り組みにもチャレンジする予定です。



① 給水訓練・発電機実働訓練



② 得点集計をするスタッフ

＜田子市民センター＞の取組み〔目標3-②〕

田子市民センターが平成25年度から複数年かけて取り組んできた事業「田子のきずなステーション」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

誰でも気軽に参加できる場の提供として取り組んだ「ダーツ交流会」ではサークルが立ち上がることになりました。自立したサークルとして活動を始め、助成金を申請し交流会を開催するなど地域での交流を深めています。また、参加した方が自分の町内で活動を始めるとダーツを通じて交流の機会が広がっています。

ボランティアが運営する「オープンクラス卓球」は10回開催しましたが、毎回新たな顔ぶれが参加し、各回の参加者数も増え、身近な交流の場として定着してきています。ボランティアは、参加者にいかに満足感を与えるかを反省会で話し合いながら次回をより良いものにしようと努力しています。

また、別事業で取り組んだ「田子の魅力を発信し隊」の受講生が、受講後月1回の編集会議でアイデアを出し合い、「きずな通信」への掲載記事を提供することを目的の一つとして活動を始めました。自分の足で歩き集めた情報を写真に撮ったり文章にまとめたりしたものを土台に、会議で記事にまとめ情報発信に努めています。情報は市民センターホームページでも発信しています。

いずれも平成28年度へ活動が続く予定です。



三つのダーツサークルの交流会の様子



熱のこもった
編集会議の様
子と校正中の
記事



オープンクラス卓球では毎回新たな参加者が加わる

＜福室市民センター＞の取組み〔目標3-②〕

福室市民センターが平成 25 年度から複数年かけて取り組んできた事業「福室防災塾」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成 27 年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

地域を災害から守るために開講した「ふくむろ防災塾」。地域防災リーダーを講師に、福室小学校区の 10 町内会から 4 名ずつ参加した 40 名がいざという時の対応方法について学びました。

防災活動は積み重ねが大事。地域防災の考え方の共有、個々の対応方法の学習を経て、3 年目の今年は「福室学区総合防災訓練」を企画し、その訓練に向けての確認・検討を中心に学習を重ねていきました。

11 月には一般住民も参加する「福室学区総合防災訓練」を実施。初動期の各班の活動に重点をおいた訓練を実施し、防災スキルを身につけました。今後も地震津波だけではなく大雨洪水への対応、複数の地域防災リーダーの育成、町内会防災スタッフ経験者の増加と課題はたくさんありますが、一歩一歩着実に進めていきたいと思えます。

